

県立博物館の使命

被災文化財の修復・復興の7年

平成23年3月11日、わが国観測史上最大の東北地方太平洋沖地震とそれにとまなう大津波によって、この地域に伝わる貴重な多くの文化遺産および自然遺産、そして数多くの博物館および関連施設が深刻な被害を受けました。

県民の皆さんは果たしてどれだけの文化財被害が出たのかご存じでしょうか。津波が市全体を直撃し極めて深刻な被害を受けた陸前高田市には、当時約56万点の文化財、自然史標本が収蔵・展示されていきました。そのうち10万点強は流出しましたが、全国の皆様からのご支援によって46万点余りを救出することができました。現在22万点の修復を終えましたが、未だ24万点を超える資料が救出されたままの状態での再生を待っています。

震災から7年余りが過ぎましたが、被災地はもちろんのこと、全国各地でも今も様々な分野で被災文化財再生と活用に向けた取り組みが進められています。紙や絵画、木製品をはじめとする救出された文化財の再生を図るうえでの最大の課題は、海水をはじめ津波によってもたらされた文化財の劣

化を促進する様々な物質を効果的に除去する方法の確立です。この前代未聞の文化財再生活動は、文化庁、東京国立博物館、東京芸術大学をはじめとする全国の研究機関や大学等のご支援とご協力によって継続されています。しかし、これまでボランティア精神の下に、多くの方々によって被災文化財の修復作業が続けられてきましたが、そのご尽力を県民の皆さんにお伝えできていないのが残念でなりません。

さて、「岩手県立博物館使命書」には、「様々な機関と連携し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与すること」が、また、県立博物館中期計画には、「岩手の自然や人間の営みの証拠となる資料の収集・保存並びに被災文化財等の修復・保存に努め、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していくこと」が、記載されています。被災文化財の修復は歴史をつなぐ重要な仕事です。言うまでもなく私たちの生活は、これまでの地域の有形・無形の文化財の上に成り立っています。安定化処理を必要とする資料は膨大な数に上りますが、最後の一点が修復され、



岩手県立博物館 館長

高橋 廣至

次世代に確実に継承されるまで終わることはありません。遭ってはならない震災でしたが、私たちは多くのことを考えさせられました。自然の驚異、人と人との絆、平和とは、幸福とは……。

奇しくも震災から3ヵ月後、郷土「平泉」が世界文化遺産に登録され、平和を求める普遍的な浄土思想が世界の人々から高く評価されました。そして、現在、「平泉」や「釜石」の世界遺産登録等によって岩手の自然や歴史を知っていただく機会が増えています。

震災から7年間、絶え間なく続けられている被災文化財修復作業。それは、地域の歴史や文化を未来につなぐ再生作業であり、また、県立博物館の使命でもあります。県立博物館にいらした折りには、是非、被災文化財修復作業の状況をご覧いただきたいものと思います。

最後になりますが、当館が実施して参りました被災文化財等救援事業に対しまして、ご理解を賜りますと共に、これまでと同様に多くの方々のご支援とご協力をお願いいたします。